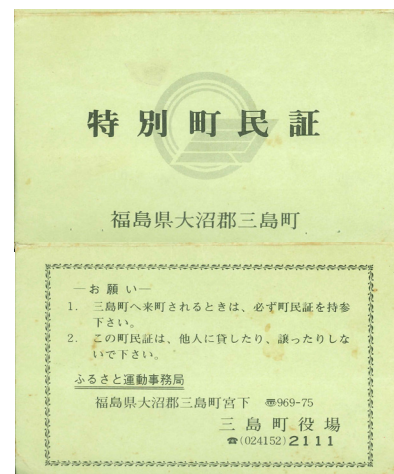


ふるさと運動50周年
～振り返る三島町の歩み～



1974 年 (昭和 49 年)	ふるさと運動が始まる 美坂高原管理棟完成
1975 年 (昭和 50 年)	三島大橋完成
1976 年 (昭和 51 年)	ふるさと荘完成 大林ふるさとの山管理棟完成 ふるさと振興公社設立
1977 年 (昭和 52 年)	首都圏三島会発足
1981 年 (昭和 56 年)	生活工芸運動が始まる
1982 年 (昭和 57 年)	第一回三島フォーラム開催 有機農業運動が始まる
1983 年 (昭和 58 年)	地区プライド運動が始まる 健康づくり運動が始まる

ふるさと運動の振り返り



現在の三島町は「ふるさと運動」が礎となっています。しかし、年月が進むにつれ、当時の「ふるさと運動」を知る職員が退職し、その理念や経緯などを知る機会が減少しています。そのため、「ふるさと運動」50周年ということもあり、役場では勉強会を行い、当時の取り組みへの理解を深めているところです。また、役場職員だけでなく、町民の皆様にも「ふるさと運動」に興味を持っていただきたいため、今月号から「ふるさと運動」の特集を行います。

今の町づくりとの関係

ふるさと運動の概要

皆さんは、「ふるさと運動」と聞く
と何を思い浮かべますか？
「ふるさとを持たない都会の人たち
に理想のふるさとを」をキャッチコ
ピーに昭和49年（1974年）に、当
時町長であった佐藤長雄氏の下展開さ
れました。

「ふるさと運動」によって、町民と同じく町の施設を利用できる「特別町民制度」や親戚のように町民のお宅に泊まれる「ふるさとの家」、美坂高原整備が進められ、全国に先駆けて都市農村交流が展開され、さらには生活工芸運動や地区プライド運動などへと繋がっていきました。

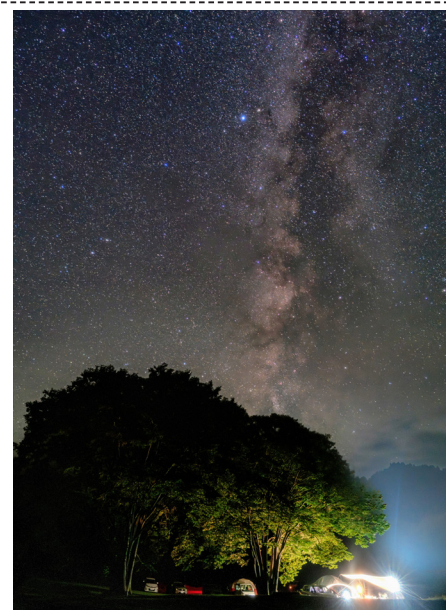
現在もなお、特別町民制度は継続し、生活工芸運動や美しい村づくりなど、形を変えながら「ふるさと運動」から広がった事業が展開されています。

「ふるさとを求める人に理想のふるさとを」、「三島に住む人に希望と生きがいを」そんな言葉を残した当時町長の佐藤長雄氏は、何を思い何を目標に「ふるさと運動」を進めたのでしょうか。

昭和49年のスタート当時の資料を確認すると、
今では考えられない程の賑わいと活気にあふれてい
たそうです。

少子高齢化が進み、さらなる人口減少が見込まれる中で、「ふるさと運動」を振り返り、改めて「ふるさと」を大切にしていくことが求められていると考えられます。

時代や形が変化しても、美坂高原でイベントを開けば特別町民として遊んだことがあるという方は多くいらっしやいます。そんな方々の期待を背負い現在、「ふるさと運動」の中心であつた美坂高原を星空により活用を図るなど、ふるさとに賑わいや新しい交流に繋げていくことが大切と考えます。



テレサ・テン歌碑建立事業！ ～ふるさと運動 50 周年記念～

プロジェクト立ち上げの背景

1977 年にアジアの歌姫「テレサ・テン」が 8 枚目のシングルレコード「ふるさとはどこですか」のキャンペーンに三島町を訪れ、ふるさと運動を展開していた三島町の町民は、彼女を温かく迎え入れました。3 月の残雪が残る中「これほどまでに沢山の雪を見たのは初めて」と感嘆する彼女に町民は伝統工芸のワラ細工の長靴を履かせたり、郷土料理などおもてなしをしたりと温かく迎えました。また、そのお返しに開いたミニコンサートでは、彼女の歌声に町民は心を震わせました。その際、三島町の特別町民にも加入していきました。三島町とテレサ・テンとの心の交流は今でも語り継がれ、そのきっかけとなった楽曲「ふるさとはどこですか」は、町民の心に深く刻まれています。

テレサ・テン没後から 30 年

テレサ・テンが亡くなられてからまもなく 30 年の節目を迎えます。彼女の訪日時の貴重な足跡が残る唯一の場所といえる三島町。この地を訪れるファンの方々も多く、今では海外からも訪れる場所となっています。そのゆかりの地として、足跡を残すことの意義は非常に大きいと私たちは考えています。

一方で、三島町が進めてきた「ふるさと運動」は今年で 50 周年を迎えました。「ふるさと」という概念が希薄となり、更なる人口減少が続き、消滅可能性自治体という危機感が全国に広がっています。そのような中で、ふるさとの良さを再認識しながら、多くの方に第 2 のふるさとと思って頂けるための取り組みが 50 年という節目を迎えました。この取り組みも後世に伝えていくことの意義もまた、大きいと私たちは考えています。

宮下駅前テレサ・テン歌碑建立について

三島町では、テレサ・テン没後 30 年及びふるさと運動 50 周年の記念に、テレサ・テンの日本の心のふるさと三島町が、ファンの方々にとってもふるさとと呼べる特別な場所となることを目指して「ふるさとはどこですか」の歌碑を建立します。



宮下駅前歌碑の完成イメージ

テレサ・テン歌碑建立の寄付者を募集中！

日本でも数少ない「テレサ・テンのゆかりの地」である福島県三島町にテレサ・テンの 8 枚目のシングル「ふるさとはどこですか」の「歌碑」を会津宮下駅前に建立するための事業費の一部、総額 750 万円の寄付を募集します。

詳しい内容については右下 QR コードまたは、町ホームページから「テレサ・テン歌碑建立プロジェクト」と検索をお願いいたします。



☎ 地域政策課 ☎ (48) 5533



歌碑イメージ

ふるさとの家

～特別町民から親戚のように～



Q. ふるさとの家を始めた時の思い出
私がふるさとの家を始めたのは昭和 53 年ころだったと思う。一番最初に始めたのは小堀良徳さんと山垣さんたちだったと思う。
特別町民の方がいらつしやったときにこの木の特別町民証を渡して首にかけてもらったの。これで美坂もお風呂も町民と同じ待遇で使えたの。



小柴 ヨシノ さん (写真左)

今回から「ふるさと運動」に直接関わっていた方にインタビューを行い、当時の「ふるさと運動」について振り返っていきます。最初にインタビューを行うのは「ふるさとの家」として民泊をしていた小柴 ヨシノ (西方) さんです。

ふるさとの家についてインタビュー

Q. 特別町民のなつての繋がりに関して
ふるさとの家をしているとき、嶋田さん家族と川原田さん家族が来てくれたの。5 年くらい続けたかな、そのあとずっと関係が今まで続いているの。嶋田さん家族は、「ふるさと運動」30 周年のときも町に来てくれて昔小さかった子ども達も結婚して子どもを連れて来てくれたの。今一番ご夫婦で来るのは瀬田さん。瀬田さんの息子が私の長男か次男どっちかと同じ年で民泊のときいつも来てくれたの。瀬田さん夫婦は今でも電話すれば繋がるような仲で、野菜を送ったり向こうから送られてきたりしてる。
民泊は平成 9 年までやっていただけ民泊しちやいないってなってるからは、森校舎カタクリに泊まってもらうように移行しようってなったの。



Q. ふるさとの家を始めた時の思い出

始める時は、私は児童館で働いてた。泊めてくれとお願ひされたときは、二階も空いてるし、「まあまあやっか」ていうような感じだった。嫌いではなかったかな、子ども相手にするの好きだったから。でもその頃、私務めてたから食事関係はばあちゃんやってくれた。でも昼間はみんな美坂高原とか川に出かけちゃうから、いっぱい作る必要はなかったの。

Q. ふるさとの家が人気だった理由は何？

人気だった理由は、場所とやっぱり人だな。人付き合いが私は好きだったからやっぱり民泊やつて良かったなって思うの。今でも関係が続いている人は親戚みたいなもので今でも会えることが楽しみなってます。



ふるさと運動50周年 ～振り返る三島町の歩み～

三島の自然でおもてなし～特別町民の過ごし方～

当時の観光協会の仕事についてインタビュー

前回に引き続き「ふるさと運動」に直接関わっていた方にインタビューを行い、当時の「ふるさと運動」について振り返っていきます。今回インタビューを行うのは当時、観光協会の一員として特別町民を美坂高原や大林ふるさとの山等に案内を行っていた海老名健さんです。



海老名健さん 桧原地区（写真左）

Q. 当時の観光協会の仕事について

当時は観光協会Ⅱ「ふるさと運動」でほかに若い人がいなかった。私はバスで送り迎えをしながら観光案内をして、美坂高原で一日中遊ばせてまた乗せて戻ってくるっていう感じだった。

Q. 運動を始める時はたくさんの方が来ることを予想していたか

来るには来ると思っていた。そのころは特別町民の人たちを相手に動いてたから、特別町民でない方を勧誘するために色々なことをしてPRしていた。私は宮下駅からバスでお客さんを乗せて美坂に行き遊ばせて、帰り3時過ぎ頃降りてきて西方のふるさとの家やふるさと荘に送り届けていた。連泊する人がほとんどで、民泊の人から明日特別町民の人が乗りますなんて連絡もよくあった。朝9時頃バスが出て美坂から大林までぐるっと周って下りてきて逆に大林に居る人を美坂に連れていく。結構忙しかったよ。

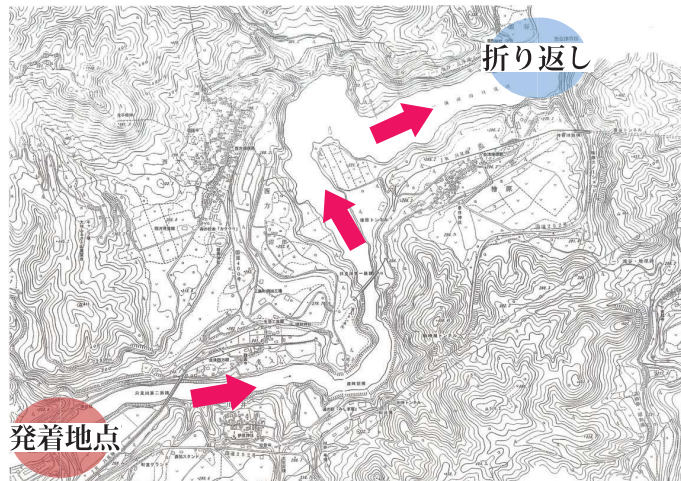
Q. 美坂高原ではどんな遊びをしていたのか

まず乗馬やつたべ。釣り堀、放牧、自転車、なんでもやっていた。釣り堀は多い時で100人くらいいたな。浅瀬に魚を放流してつかみ取りとかもやっていた。バス運転しながら今日何やりたいか聞いてみて要望に合わせて遊ばせてた。だから、なんでもできるオールラウンドプレイヤーじゃないといけないかった。元々何も無い場所だからあるもので楽しませなきゃいけないかった。だから自分たちで遊びを作らなきゃいけなかった。

Q. 只見川ライン下りについて

只見川ライン下りのコースはふるさと荘の下から麻生大橋の手前までだ。景勝地はいっぱいあって、鉄橋もそうだけれど特に、糸滝は下から見ると、ものすごい綺麗でみんな喜んでた。あと、只見線が鉄橋を通る昼時のタイミングで船を出してた。船に乗ってる人も喜ぶし、列車から手を振ってくれる人もいた。多い時だと船が沈むんじゃないかっていうくらい乗客がいた。中々体験できるんじゃないから人気だったんだと思う。

◀ 只見川ライン運行図

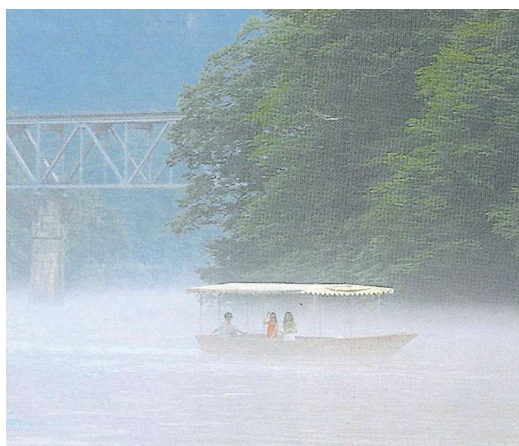


Q. 当時も山霧の中船を出っていたのか？

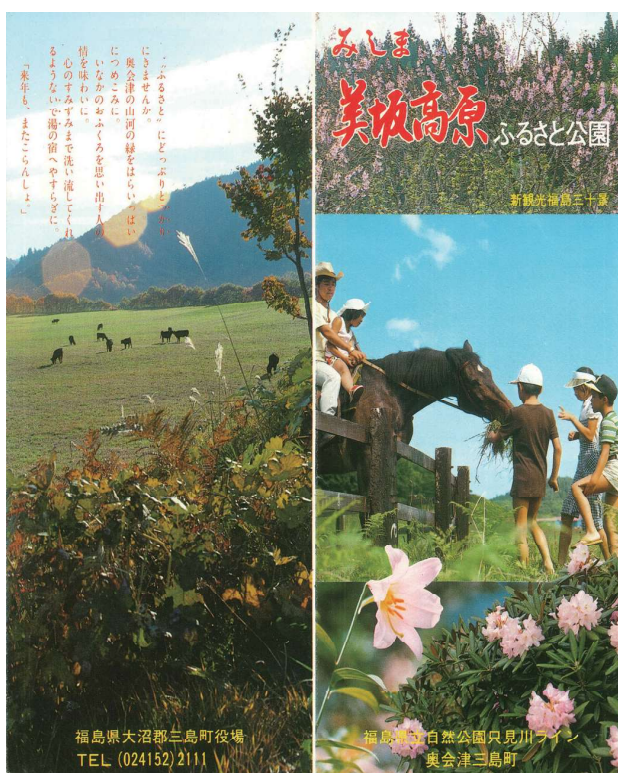
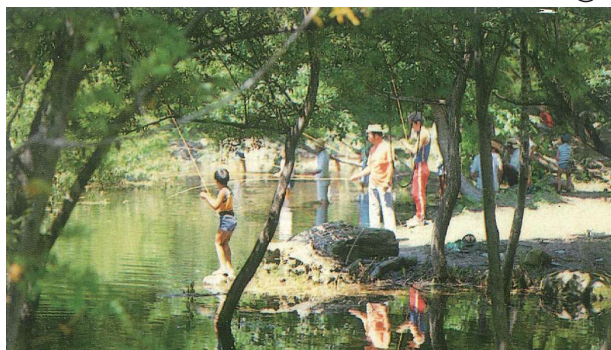
出していた。喜んでたわいみんな。だって普通は通れないもん。夏は大体午後になってくると川霧が張ってくんだよ、暑いから。ライン下りは、秋までずっと人気だった。春は若葉と桜、夏は川霧、秋は紅葉。これはすごかった。

Q. ナイチャーガイドについて

ナイチャーガイドは木や植物の名前はもちろん知ってなきゃいけなし、気さくでどうやったら楽しめるか考えなくちゃいけない。だけど遊び方や楽しみ方は、全部教えるんじゃないで少しずつヒントをあげて、自分たちで楽しみ方を見つけられるようにしてやるのが一番大切なんだ。



◀ レクチャーする健さん（右側男性）



美坂高原ふるさと公園

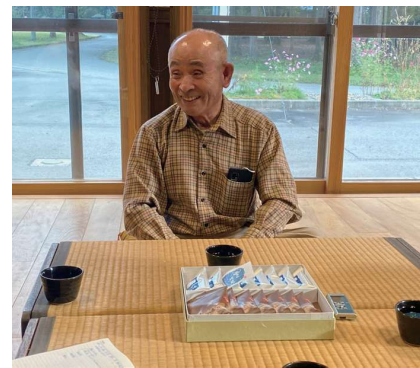
風がおる高原の牧場。人間も自然にかえって自然に遊んで下さい。日本一のウラボシの宝庫、ウド、ペンマイ、フキなども豊富です。自転車、乗馬、バーベキュー、釣り、溪流釣を楽しみ、つかれたら木蔭でビールを飲んで下さい。緑の風が夢の世界へさそってくれる。

ふるさと運動50周年 ～振り返る三島町の歩み～

ふるさと運動の発足と生活工芸運動

立ち上げに関わった 役場職員にインタビュー

前回に引き続き「ふるさと運動」に直接関わっていた方にインタビューを行い、当時の「ふるさと運動」について振り返っていきます。今回インタビューを行うのは当時、役場職員として「ふるさと運動」の中核を創り上げ、生活工芸館初代館長の福田耕士さんです。今回は元役場職員ということもあり、行政側からの視点にご注目ください。



福田耕士さん(大谷)

Q. 立ち上げ当時の担当課について

今から50年前、昭和49年だったかな。齋藤茂樹元町長が企画室長で私が企画係長で、当時観光協会の海老名健ちゃんと他職員2人の計5人が企画室のメンバーだった。

Q. 『ふるさとの家』立ち上げについて

突然、佐藤長雄町長から呼ばれ、室長と一緒に町長室に行った。長雄町長が「都会の人から年会費もらって、その代わりに三島に来てもらっているという楽しんでもらう、ついでに何を展開したいから企画検討してまどめろ。」と言われた。当時から長雄町長は頭が切れて相談するとすぐ理解してくる反面、間違ったことを言うと「ばかやろう、辞表もってこい」なんて言われてた。だけど、面倒見も良くて大きな問題が起きても、怒らず適切に対処してくれて、温かい気持ちを持っていた方だった。

役場で検討することになって特別町民制度の中身を考えるようになった。特典は、広報誌や餅を送るのと「ふるさとの家」の紹介、三島に来町されたときは一般町民と同じ料金で公共施設を利用できるという内容だった。

都会の人に三島に来て泊まってもらって、農家が潤うようにすることが長雄町長の考える一番の目標だから、農家に泊まる民泊をすることになり「ふるさとの家」をやることになった。町民の皆さんにも特別町民制度に協力してもらうために毎晩集落座談会をしたんだ。

民泊を受け入れる町民の方はもてな

Q. 生活工芸館の立ち上げについて

教育委員会にいるときに長雄町長から呼び出されて、「生活工芸館さ行け」と言われて、行くのはいいけどいったい何すればいいんだって聞き返したら、「それはにしゃが考えるんだ」って。工芸館に本当に一人で配属になってどうやって運営すればいいか、前例も目標もない中で何していいかわからなかったけど、木工機械室設けて、デザイナーとして千葉大の宮崎清先生の教え子の西牧研二君が入ってきて編み組細工のデザイン考えた、あと掃除とか色々やってくれる女性のスタッフの計3名で工芸館が始まったんだ。



▲昭和61年生活工芸館落成式のテープカット

Q. 生活工芸運動について

12月になると町長予算査定があるから何か計画しないといけないからいろいろ考えたんだ。一つ目は作品コンペ。大学生と一般の人で区切って課題を与えて作品を提出してもらおう。そこからものづくりのアイデアにつながればいいと思ったんだ。二つ目はふるさと会津工人まつり。西牧君が毎週木曜日に研修で若松に行っていたんだ。だから、若松のものづくりしている人を紹介してもらって集めた28店で工人まつりの始まりだったんだ。名称に会津って入っているのは、最初は若松とか会津の人達だけしか想定してなかったから。最初はチラシも手作りだったし来る人も少なかったけど、3年目くらいから少しずつお客さんが増えてきて今では三島町最大のイベントになったよな。

俺は事業とか企画の立ち上げに多く携わってきたけど、先入観を持たないことが重要だと思う。先入観を持つちゃうと何事もできないことだらけになっちゃう。できないじゃなくてできるようにするためにはどうするか、って考えることが役場職員の仕事だと思う。そういうこともあって退職まで俺はおもしろかったな。

Q. 福田さんが思う三島町の魅力とは

人間が温かい、空気もきれいな、水もおいしい自然がいっぱいな。山さ行けば小鳥が飛んでる、山菜も四季折々でいろんなものが生えてる。他では体験できないことが多い。都会の人はこういうことに魅力を感じてうんと喜んでくれると思う。今から民泊は難しいかもしれないが、稲刈り体験やそば打ち体験のツアーとかは、一時的でもいいからはじめると思う。三島はまだまだ魅力がいっぱい残っているからまた活用して盛り上げていってほしい。



▲テレサ・テンさん記念植樹時の集合写真



▲昭和62年7月号三島町町政だより抜粋

しに不安があったから当時民泊を行っていた山形県の小井沢集落に研修に行ったんだ。あとは、毎日同じ料理出すわけにいかないから、県の農業改良普及所をお願いして郷土料理のレシピ本を一冊作ってもらったんだ。そんなある時役場に知人の工藤忠俊先生から電話がかかってきた。工藤さんは東京で会社を経営している方で今でも関わりがあるんだけど、「東京にいる子どもが人間本来の生活を経験していない。だから三島に連れてきて豊かな自然に触れ合わせたい」って内容だった。最高のタイミングだと思って、サマースクールとして30人くらい子どもを連れてきてもらって民泊で面倒見てもらったんだ。この経験で民泊に協力してくれた方も自信がついて「ふるさとの家」が完成したんだ。



▲レシピ本として作成されたお料理カード



テレサ・テン歌唱大会～ファンミーティング～



「只見線テレサ・テン号」を運行

歌碑説明



- 歌碑刻印内容
ふるさとはどこですか
小村之戀（中国語）
- センサー音響（右手設備）
ふるさとはどこですか
小村之戀（中国語）
時の流れに身をまかせ
（3曲が人感センサーにより流れます）

11月8日、会津宮下駅前広場において、テレサ・テン歌碑除幕式が執り行われました。

歌碑は、テレサ・テンが1977年にシングルレコード「ふるさとはどこですか」のキャンペーンに三島町を訪れたゆかりを後世に残すため、また、テレサ・テンが来訪するきっかけとなったふるさと運動が50年の節目を迎えた記念事業として建立されました。

式には、テレサの実兄であり、テレサ・テン文教基金会董事長の鄧長富氏、CEOの鄧永佳氏、名誉顧問の舟木稔氏はじめ、音楽関係者など多数のご来賓が出席されました。また、仙台、東京、上海などのファンクラブのメンバーの方々も式に参列して頂きました。

午後にはファンクラブの方々を中心にテレサ・テン歌唱大会が町民センターにて開かれ、テレサの名曲により自慢の美声を響かせました。

歌碑建立には寄附を募り、以下の方々より寄附を頂きました。



除幕式の様子



矢澤町長



鄧董事長様



舟木稔様



郭東京FC会長による「ふるさとはどこですか」の合唱



中国のファンクラブの皆様



東京ファンクラブの皆様

企業の皆様

滝谷建設工業株式会社 様（宮下）
 佐久間建設工業株式会社 様（早戸）
 早戸温泉つるの湯企業組合 様（早戸）
 有限会社藤田石材店 様（柳津町）
 渡辺音楽出版株式会社 様（東京都）
 株式会社渡辺プロダクション 様（東京都）

藤井正之様（千葉県）	酒井由美様（埼玉県）	上野正博様（会津若松市）	布川幸治様（埼玉県）	眞鍋忠男様（会津若松市）	大橋弘様（福島市）	坂本公二様（双葉町）	坂本美智子様（東京都）	坂本公貴様（東京都）	酒井功様（宮下）	増子朋子様（本宮市）	村松速雄様（神奈川県）	猪俣淑江様（会津坂下町）	馬場幸江様（大登）	坂内孝雄様（小山）	加藤正人様（千葉県）	舟木稔様（東京都）
大内昌明様（郡山市）	李燕紅様（埼玉県）	林弥生様（大阪府）	佐藤岩男様（会津若松市）	佐久間源一郎様（早戸）	五十嵐正昭様（会津若松市）	長谷川貴宏様（会津坂下町）	田村司様（宮下）	板橋康宏様（宮下）	田中智仁様（宮下）	添田啓子様（郡山市）	添田健次様（郡山市）	内川由紀様（会津若松市）	鈴木憲生様（宮下）	遠山直人様（東京都）	長谷川市雄様（桑原）	田偉様（東京都）

ご寄附ありがとうございます